

2019 年度（令和元年度）

# 学校関係者評価 報告書

学校法人巨樹の会  
福岡看護専門学校第1科

本報告書は、学校法人巨樹の会 福岡看護専門学校第1科の職業実践専門課程認定に関わる学校関係者評価委員会の評価結果を記したものである。

2020 年 7 月 1 日

学校長 松原 孝俊

副学校長 淀川 めぐみ（学校評価実施責任者）

## <目次>

### 1. 学校関係者評価の概要と実施状況

- 1) 学校関係者評価の目的、方針
- 2) 学校関係者評価委員
- 3) 学校関係者評価委員会の開催
- 4) 学校関係者評価の実施

### 2. 学校関係者評価の内容

- 項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像
- 項目Ⅱ 学校運営
- 項目Ⅲ 教育活動
- 項目Ⅳ 学修成果
- 項目Ⅴ 学生支援
- 項目Ⅵ 教育環境
- 項目Ⅶ 学生募集
- 項目Ⅷ 財務
- 項目Ⅷ 法令等の遵守
- 項目Ⅹ 社会貢献、地域貢献

# 1. 学校関係者評価の概要と実施状況

## 1) 学校関係者評価の目的、方針

- ① 関係業界・職能団体、高等学校、卒業生、学生保護者、地域住民などの学校関係者が、本校の自己評価の結果を評価することで、その妥当性を確認し、客観性・透明性を高めることを目的とする。
- ② 学校関係者評価により、本校の学校運営・教育活動における課題を明確にし、その意見を参考に学校運営の改善を図る。
- ③ 学校関係者評価は、本校の自己評価を基に、「専修学校における学校評価ガイドライン」、及び本校の学校評価実施規程に則り実施する。

## 2) 学校関係者評価委員

評価日 令和2年3月25日現在

委員氏名	所属	選出区分
西村 由紀子	純真学園大学 保健医療学部 看護学科長 教授	専門家等評価委員
早川 明美	カマチグループ九州看護局長兼福岡和白病院 看護部長	企業等委員
跡部 秀之	第一薬科大学講師 (福岡県立福岡魁誠高校 前学校長)	高校等評価委員
後藤 歩	福岡県済生会二日市病院 看護師	卒業生委員
阿部 正剛	元福岡市議会議員	地域委員

※敬称略、順不同

## 3) 学校関係者評価委員会の開催

- 第1回委員会 日 時: 令和元年9月11日(水) 15:00~17:00  
場 所: 福岡看護専門学校 会議室(6階)
- 第2回委員会 日 時: 令和2年3月25日(水) 15:00~17:00  
場 所: 福岡看護専門学校 会議室(6階)

## 4) 学校関係者評価の実施方法

令和元年度の自己評価に基づき、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- ① 自己評価の結果及び内容が適切かどうか
- ② 課題やその解決への方向性が適切かどうか
- ③ 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- ④ 学校の運営に関する助言

# 2. 学校関係者評価の内容

学校関係者評価、自己評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による4段階の評定基準にて実施する。

### 【評定基準】

- S : 達成度がきわめて高い (達成度が高い)
- A : ほぼ達成している (概ね達成しており、明らかな改善は要しない)
- B : 達成がやや不十分である (若干の改善を要する)
- C : 達成が不十分である (不適合がある、明らかに改善を要する)

## 項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

### 総括

教育理念に沿った教育目的・目標が学生便覧に明記されている。人材育成像は、学生便覧・ホームページなどに掲載している。また、保護者会やオープンキャンパスで本校の教育についての周知を図っている。関係業界に対しては実習指導者会議や高校や本校で開催される説明会で周知を図っている。現在の看護では、アセスメント力、看護実践力、コミュニケーション力が求められる。これら、看護師に必要な知識・技術・資質については、学生便覧・シラバスに明記している。実践力強化を目指すため、高機能シミュレーターを活用し臨床場面を想定した教育方法を取り入れ医療界に求められているニーズに対応している。また、実習指導者会議等で育てたい人材育成像を伝え、学習支援に協力いただいている。

卒業時満足度調査では、「教育理念に沿った教育を受けられた」は100%の学生がそう思う(とてもそう思う60%、そう思う40%)、「専門的な知識・技術が身につく授業であり満足している」も100%の学生がそう思う(とてもそう思う80%、そう思う20%)、「専門職として役立つことを身につける内容であり、満足している」も100%の学生がそう思う(とてもそう思う70%、そう思う21%)という結果であった。

### 課題及び今後の改善方策

人材育成像について明記し、それを関係業界に説明する機会もある。実習施設と連携を図っていく中でニーズを把握して行く機会を設ける。

### 学校関係者評価委員会からの意見

教育理念・目的・目標、人材育成像が周知され、対象者がどのように理解しているのかが重要である。基礎教育での学びを卒業後発展させていくために看護技術経験・到達度がわかるような資料を持たせることを形骸化せず継続していくことに意味があると意見をいただいた。

### 小項目Ⅰ-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

#### ■コメント

学生便覧、学校パンフレット、ホームページ等で広く公表し周知している。

### 小項目Ⅰ-2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界(高校、病院、実習施設など)に周知されているか

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

#### ■コメント

学生便覧、学校パンフレット、ホームページ等で広く公表し周知している。

### 小項目Ⅰ-3

教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

#### ■コメント

主たる実習施設と毎月実習指導者会議を設け、学生支援について検討している。

学生に求められている、アセスメント力、看護実践力、コミュニケーション力を育成するために、シミュレーターを用い、臨床場面をイメージした演習を取り入れているが、実習施設からの評価を受け、教育課程に活用していく。

## 項目Ⅱ 学校運営

### 総括

福岡保健学院の事業目標・学校の事業方針をもとに、管理目標を設定している。管理目標は各科で具体的な目標を立てて取り組み、評価している。これらには教員の意見が反映されており、その評価が次年度の方針に活かされている。

学校組織と諸会議規定、諸規定は明確になっており、就業規則、学生便覧に示されている。また、学事システムや共有フォルダを活用し、業務の効率化を図っている。

### 課題及び今後の改善方策

特になし

### 学校関係者評価委員会からの意見

実際に運営方針や中間評価等を示している方法を明文化しているといよい。

### 小項目Ⅱ-1

教育理念・目的・目標等に沿った運営方針が策定されているか

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

#### ■コメント

教職員の組織は明確になっており、決定事項の周知、組織員の意見の活用は、なされている。

### 小項目Ⅱ-2

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

## ■コメント

諸規定は各科で保管しており、いつでも教職員が閲覧できるようにしている。

### 小項目 II-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価: A      ■学校関係者評価: 適正

## ■コメント

科毎の共有フォルダの活用により、学年運営・実習運営の効率化が進んだ。

学事システムは学生情報、特に成績管理を中心に構築され、セキュリティ管理されている。

## 項目Ⅲ 教育活動

### 総括

学生便覧に教育課程を明示している。学生には学生便覧とシラバスをもとに、教育課程・授業計画を説明している。教育方法は看護実践者を育成するために毎年検討し工夫している。

授業評価については、内部教員は終講時に学生にアンケート調査を実施し、評価を受けて教育活動の達成度の把握と課題を明確にしている。また、非常勤講師についてもアンケート調査を行い、結果を伝えている。

看護師国家試験合格に向けた取り組みとして、1年次より3年間を見据えた計画を立て実施している。特に3年生に関しては全教員で支援している。

卒業時満足度調査では、「国家試験対策、学習支援に満足している」は100%の学生がそう思う(とてもそう思う83%、そう思う17%)であり、満足していた。「実習での教育・指導体制に満足している」も100%の学生がそう思う(とてもそう思う62%、そう思う38%)という結果であった。

教員の研修に関しては専門性を高める研修に積極的に複数回参加し、また実習指導者研修や看護師教育の講師として派遣している。

### 課題及び今後の改善方策

授業評価については非常勤講師を含め実施しているが、学生へのフィードバックができておらず課題である。

学生が学び方をイメージできるように3年間の教育方法・評価の全体像が見えるように形にする必要がある。

### 学校関係者評価委員会からの意見

シラバスは作成されているが、必要な要素がすべて入っているか確認した方が良い。

様々な内容・教育方法を工夫していることがわかる。3年間の順序性の中で教育方法と評価の関係性など全体像が見えるようにすると学生・教員で共有でき、これが必要である。

授業評価については昨年に比べ改善している。結果を学生へフィードバックしていくシステムができると良い。

### 小項目 III-1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価: A      ■学校関係者評価: 適正

## ■コメント

開講時に詳細な授業計画を配布してはいるが、シラバスに学生の学びにつながるような内容・方法を記載しているか、再検討の必要がある。

### 小項目 III-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価: A      ■学校関係者評価: 適正

## ■コメント

臨地実習においては、実習要項に指導要項を明記・周知し会議にて学習状況を把握している。講義・演習・実習にルーブリック評価を導入、高機能シミュレーターを活用し、状況の中で思考・判断する機会を作っている。

### 小項目 III-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価: A      ■学校関係者評価: 適正

## ■コメント

学生よりアンケート調査の協力を得て、全教員が授業評価を実施し、次年度への課題を明確にした。非常勤講師についても評価を実施し、結果を伝えている。学生に対して結果の公表はできておらず、検討の必要がある。

### 小項目 III-4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価: A      ■学校関係者評価: 適正

## ■コメント

年間計画を立て1年次より個別に学習支援を実施、特に3年生は教員による夏季・冬季セミナー、特別講義、成績に応じたグループ学習、個人学習会、模擬試験等を実施している。

### 小項目 III-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか。

■自己評価: S      ■学校関係者評価: 適正

■コメント

学会および研修参加について規程細則で定められており、教員は計画的に研修に参加し教育に活かしている。福岡県専任教員養成講習会、実習指導者研修、関連病院の研究指導等講師として派遣した。

## 項目Ⅳ 学修成果

### 総括

就職支援として、学生の希望を踏まえ、個別支援を行い卒業時全員が就職決定した。関連病院への就職率は62.5%で、目標であった60%を超え関連施設のニーズは満たせた。1名は助産師学校へ進学した。

国家試験合格に向けて、成績把握を行い、必要に応じて個別学習を実施した。看護師国家試験合格率 97.6%(1名不合格)であった。看護師国家試験については問題分析を行い、保護者会・講師会議で説明を行い、協力を仰いだ。卒業時満足度調査では、「国家試験対策、学習支援に満足している」は100%の学生がそう思う(とてもそう思う83%、そう思う17%)であり、満足していた。

退学者については昨年度の卒業生は1・2年次に進路変更した学生が多かった。今年度は退学率の低減を目指し、教員で問題共有しそれぞれ個々の学生の状況に合わせて支援に努めた。各学年年度初めに個人面談を実施し、学生の状況把握を行っている。学習困難、実習でのつまづきに対して早期にキャッチし、学生個々のペースに合わせて支援するなど状況に合わせた学びを支援している。保護者の協力を得たり、学生カウンセリングを活用したりしている。結果、1年生は2名進路変更、2年生は4名進路変更した。

### 課題及び今後の改善方策

退学者の低減に向けて、学生一人ひとりへの個別の関わり、学年を超えた学生交流の場の提供、全教員がいずれかの学年を担当する体制づくり、実習施設という学ぶ場の変化や求められる実践対応力について共に考え気づけるような支援をした結果、改善している。今後も継続していく。

看護師国家試験については1名不合格となった。学習の取り組みの動機付けが課題となった。

### 学校関係者評価委員会からの意見

退学者低減に向けての対応がなされている。退学率については学生個人の状況に大きな影響を受ける。やむを得ない退学(前向きな進路変更)もある。問題の早期発見や支援により食い止められる事例に対して丁寧に対応している。問題がない時こそ早めに問題となりそうなことを表現する場(定期的な面談など)を設けるとよい。学生の社会的な活躍については指導体制や個人面談の実施など明文化されるとよい。

国家試験の分析は、問題毎に正答率を出し全国平均との差で教育上の課題が見えてくる。

### 小項目Ⅳ-1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価: S      ■学校関係者評価: 適正

■コメント

就職希望者全員が就職し、進学希望者1名も希望校に進学した。

### 小項目Ⅳ-2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価: S      ■学校関係者評価: 適正

■コメント

卒業時満足度調査では、「国家試験対策、学習支援に満足している」は100%の学生がそう思う(とてもそう思う83%、そう思う17%)であり、満足していたが、国家試験合格率は97.6%であった。

### 小項目Ⅳ-3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価: A      ■学校関係者評価: 適正

■コメント

昨年度の卒業生の進路変更理由を分析し、具体的な支援方法を明確にして取り組んだ。

### 小項目Ⅳ-4

学生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価: B      ■学校関係者評価: 適正

■コメント

卒業後の活動把握については、関連病院や実習施設に就職した卒業生の把握は行えている。しかし、それ以外の卒業生の把握は不十分である。在校生の社会貢献については具体的に把握できていないため、面談を活用し把握していく。

## 項目V 学生支援

### 総括

学生支援についてはクラス担任を中心に全教員で行っている。卒業時満足度調査において就職については履歴書・面接指導を実施し、満足していると答えている。

学生相談については、担任が主に行うが、複数担当制をとっており、複数の教員で対応している。スクールカウンセラーを2名(非常勤、男女1名ずつ)配置しており、学生が教員を介さず自由に直接カウンセラーに予約を取りカウンセリングを受けるシステムとなっている。カウンセリングが必要と考えた学生については、教員が学生に合ったカウンセラーを勧めている。

保護者との連携については各学年で保護者会を実施し、必要時保護者面談も実施している。学生の学習状況、学校生活上で気になる状況がある場合は、保護者に連絡を取り保護者と共に学生を支援している。

高等学校との連携について、本校への入学生の出身校を中心に訪問し、本校の教育課程、学生支援状況や国家試験・就職状況について説明している。また、職業紹介等進路ガイダンスへ参加している。

修学支援については奨学金窓口や学費相談の事務担当を設けており、学生の相談に乗るようしている。

### 課題及び今後の改善方策

引き続き、学生一人ひとりの状況に合わせて学習支援を、進路指導を実施していく。

### 学校関係者評価委員会からの意見

スクールカウンセリングの利用件数について年次推移を把握すると傾向がつかめるのではないかと。

### 小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価: S      ■学校関係者評価: 適正

#### ■コメント

進路ガイダンス後、担任を中心に就職先決定の相談、試験までの指導等を行っている。卒業時満足度調査では、「就職活動や進学に関するサポートに満足している」は100%の学生がそう思う(とてもそう思う68%、そう思う32%)というように満足しており、就職希望者全員が就職した。進学希望者1名についても希望校に進学した。

### 小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価: S      ■学校関係者評価: 適正

### ■コメント

卒業時満足度調査結果では、「教職員の学生への対応に満足している」と回答した学生は、100%の学生がそう思う(とてもそう思う71%、そう思う29%)であった。「カウンセリングなどのサポート体制に満足している」も100%の学生がそう思う(とてもそう思う74%、そう思う26%)であった。

スクールカウンセリングは毎回5名程度が利用していた。

### 小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価: S      ■学校関係者評価: 適正

#### ■コメント

保護者会以外に、個別に学生支援に向けて情報交換や支援方法の相談を行った。

### 小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

■自己評価: A      ■学校関係者評価: 適正

#### ■コメント

高等学校を50校程度訪問し、在校生・卒業生の状況を伝えている。また、進路ガイダンスに参加し、看護師の仕事について紹介したり、本校について紹介したりしている。

### 小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価: A      ■学校関係者評価: 適正

#### ■コメント

奨学金や学費相談担当の事務担当を設けており、教員と連携してサポートしている。60%以上の学生が何らかの修学支援を受けている。校納金の支払いについて、必要な学生には相談のっている。

## 項目VI 教育環境

### 総括

昨年度、Wi-Fi環境を整え、授業中活用し調べ学習や技術動画を見たりしている。学生が使用するコピー機をカード式とし、価格を下げることで学生の経済的負担軽減に繋がった。図書室には古い図書もあるが、毎年学生や教員の意見を取り入れながら新刊書を購入している。これらにより、学習環境の整備に繋がっている。高性能シミュレーターのレンタルも継続し授業で使用している。

災害時の対応、事故対応、メンタルヘルスをはじめとする学校管理マニュアルを作成した。

#### 課題及び今後の改善方策

1・2科は授業時間が違うため、1つの実習室を共有している。しかし、実践力の強化を目指し使用頻度が増加している。ハード面は急には改善できないため、使用方法の工夫が必要でこれは継続課題である。学校管理マニュアルを再度検討し、見直しをしていく必要がある。

#### 学校関係者評価委員会からの意見

図書の本の種類や数は学生の意見を把握したうえでの対応が必要、利用しやすい、利用したくなる図書室となるようにソフト面にも配慮していく必要がある。

災害時は学生・教員の安否確認方法の周知・明示を確認しておく方が良い。

#### 小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価: A      ■学校関係者評価: 適正

#### ■コメント

卒業時の満足度調査で「パソコン・インターネット等の情報設備や利用環境に満足している」は100%がそう思う(とてもそう思う71%、そう思う29%)、「技術習得のための教材・教具など学習環境に満足している」は95%がそう思う(とてもそう思う59%、そう思う36%)であった。

#### 小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価: A      ■学校関係者評価: 適正

#### ■コメント

実習指導体制については各実習施設と実習前、実習中、実習後に検討し、学生の学びを保障している。

#### 小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価: A      ■学校関係者評価: 適正

#### ■コメント

毎年学生、教職員で避難・消火訓練を実施している。災害時の行動については、学生便覧に記載し、学生に伝えている。各学年の緊急連絡網はクラスラインを活用しており、学生にも周知している。教員に関してはグループライン、連絡網を作成している。

作成した学校管理マニュアルを再度検討し、見直しをしていく

## 項目VII 学生募集

#### 総括

毎年、福岡県内を中心に高等学校を訪問し、学校紹介を行っている。今年度は44校の学校訪問を実施した。訪問時、学生の状況を報告し、本校の教育の実際について説明している。

オープンキャンパス2回、学校説明会2回、高校教員向け学校説明会を1回実施した。高校より依頼のあった職業紹介、面接指導も実施した。

#### 課題及び今後の改善方策

特になし

#### 学校関係者評価委員会からの意見

特になし

#### 小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価: A      ■学校関係者評価: 適正

#### ■コメント

特になし

#### 小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価: A      ■学校関係者評価: 適正

#### ■コメント

高校教員やオープンキャンパス参加者には国家試験合格率や就職率や就職状況など具体的に伝えている。

## 項目VIII 財務

#### 総括

中長期的な計画の下、学校運営がなされ、収支は安定している。

教育事業の方針を基に、各科から希望を出し予算を編成している。また、各校からの予算が本部で集約され、学校法人として許可されている。

#### 課題及び今後の改善方策

特になし

学校関係者評価委員会からの意見

特になし

小項目 Ⅷ-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

中長期的な計画の下、学校運営がなされ、示された収支は安定していると考える。

小項目 Ⅷ-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

事業計画に基づき各科から購入希望を受け妥当性を確認し、予算を立てている。決算の管理は管理部門で確認されており、収支バランスが示されている。

小項目 Ⅷ-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

財務の会計監査は実施されており、収支に問題はない。

項目Ⅷ 法令等の遵守

総括

法令、設置基準に基づき、必要に応じて報告・届出を行っている。また、自己点検・自己評価を行い、教育水準の向上に努めている。ハラスメント防止策として、ハラスメント防止規程が示されている。教職員の休憩室にハラスメント委員の連絡先が書かれたポスターが掲示されている。また今年度、ハラスメントに関するアンケート調査が実施され、結果の開示も行われた。その結果、管理者研修を開催した。

個人情報に関しては、学校で作成しているガイドラインに基づき取り組んでいる。ガイドラインは学生にも提示し、実習前に実習施設に個人情報保護の誓約書を提出している。学生に対しては実習前・中・後に注意喚起を行い、適宜外部講師による研修を実施している。

実習期間中は学生もガイドラインに則り、患者の個人情報取り扱いに留意している。また、卒業時にも個人情報保護に関する誓約書をとっている。個人情報が記載された資料の管理は、梱

包して処分されており、情報管理に努めている。職員の入職と退職の際に、職務中に知り得た情報の保護について、誓約書を交わしている。

課題及び今後の改善方策

ハラスメントのアンケート結果を分析し、教職員全員に配布した。学校法人の7校の集約であったため、各校の状況・特徴に合わせた対応が必要である。学生への調査はできていない。

学校関係者評価委員会からの意見

学生や教員への相談件数等の周知がなされているか明確にしていた方が良い。

小項目 Ⅸ-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

法令、設置基準に基づき、必要に応じて報告・届出を行っている。また、自己評価・学校関係者評価を実施しており、適正な運営はできている。

小項目 Ⅸ-2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

教職員、学生ともに個人情報保護のガイドラインに則り、個人情報保護に努めており、学生、教員のインシデントは発生していない。

項目Ⅹ 社会貢献、地域貢献

総括

学校施設は関連施設の研修や会議に利用できるようにしている。図書室は卒業生も使用できるようにしている。教員を高等学校や関連施設、福岡県や福岡県看護協会主催の教員養成講習会や実習指導者研修に講師として派遣している。

学生のボランティアに関しては、実習施設の小児病棟のサマーキャンプ(台風のため別日にレクリエーションへ変更)への参加、実習施設である福岡和白病院の健康フェスタへの参加、学校周辺の清掃を行っている。

課題及び今後の改善方策

学生のボランティア活動については奨励したいが、情報量が少ない。情報量を増やし学生に提示する機会を増やす必要がある。



学校関係者評価委員会からの意見

特になし

小項目 X-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価: A      ■学校関係者評価: 適正

■コメント

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献はできている。

小項目 X-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価: A      ■学校関係者評価: 適正

■コメント

ボランティア活動について情報量を増やし、学生に提供していく必要がある。福岡和白病院の活動に共に参加することは継続していく。